

授業科目 保健医療ソーシャルワーク論

【担当教員名】 河野 聖夫		対象学年	3	対象学科	社会
		開講時期	前期	必修選択	選択
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	◎			
【概要・一般目標：GI0】 生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題を捉え、「わずらい」や「生活障害」への理解を得る。 保健医療福祉の現場から見える生活問題の特徴を考察し、 クライアントの自立や社会復帰の支援を目指した保健医療ソーシャルワークの理念や意義、理論と方法を学ぶ。 保健医療福祉の諸制度にも触れながら、専門職の連携、チームワークの方法と実際を学ぶ。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1) 受療者・患者・家族の置かれる社会的現状を知り、様々に生じる生活問題の諸相を考える。 2) 保健医療ソーシャルワークの基礎知識・理論を理解する。 3) 保健医療分野におけるソーシャルワークの実践（業務や展開過程、他職種との連携など）について理解する。 4) 医療ソーシャルワーカーの実践事例を通じて、社会的存在意義や役割、連携の方法について考察する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	オリエンテーション				
2	保健医療福祉の現状と社会の変化に伴う歴史的な経過				参考図書紹介、資料配布
3	生活者としての受療者・患者・家族が直面する生活問題				資料配布 時事
4	保健医療分野におけるソーシャルワークの役割と意義				倫理綱領 業務指針
5	保健医療機関の組織と専門職				参考書第4章
6	医療ソーシャルワーカーの歴史と専門性				参考書第2章 第3章
7	保健医療ソーシャルワークの実践過程				参考書第6章・第8章
8	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践				実践事例の考察 急性期医療
9	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務と実践				実践事例の考察 リハビリテーション医療
10	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務				実践事例の考察 難病・慢性疾患の医療
11	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務				実践事例の考察 終末期医療
12	保健医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）の業務				実践事例の考察 地域医療
13	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの意義				参考書第5章
14	保健医療福祉の多職種・多機関の連携・チームワークの視点と方法				実践事例の考察
15	まとめ				考察課題への取り組み
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		新訂 保健医療ソーシャルワーク原論 (社)日本医療社会事業協会編 相川書房 2006・2,200円 その他は授業内で紹介する。			
その他の資料		必要に応じてプリントを配布する。			
【評価方法】 出席状況 20 授業内小レポート 30 定期試験 50			【履修上の留意点】 毎回の授業では、事例や現場の話題を積み重ねながら説明や考察を進めていくので、各回のつながりが重要となります。 欠席するとそのつながりから分からなくなることが出てくるので、あらかじめ承知しておいて欲しい。		